

第14期 事業報告書

2023年6月1日～2024年5月31日

当法人の活動目的は、人と動物が良きパートナーとして、共に幸せに暮らせる社会を作っていくことである。

そのために、以下3つの活動を行い、また当法人の組織基盤の強化も図りながら、日本の動物福祉を世界トップレベルまで引き上げていくことを目指す。

- ① 動物福祉活動に従事する非営利法人に対して寄付支援を中心とする活動支援
- ② 動物福祉に対する考え方や情報を社会に発信していくセミナー等の企画運営
- ③ セミナー、WEB掲載等に活用するための情報リサーチ

1. 寄付支援事業

【目的と意義】

目的は2つ。1つ目は、日本の動物福祉を世界トップレベルにするために、現場で問題に向き合う非営利活動法人への寄付を主軸とした中間支援活動である。2011年9月にスタートした寄付サイト「アニドネ」は支援先認定団体は4カテゴリー（保護団体・介在団体・伴侶団体・啓発団体）を対象とし個人・企業から寄付を募り届けている。2つ目は、寄付文化醸成である。犬や猫も社会的弱者であり寄付で救うべき存在である。しかしながら、寄付文化が根付いていない日本では必要な寄付がまだまだ足りていない状態である。よって、個人や企業に対して様々な寄付のスタイルを提供することも私共のミッションとしている。

14期終了後の寄付の総額は約5億1,485万円、支援先団体は本年度6団体が追加され39団体である。

13期よりスタートしたマーケティング外部アドバイザリーボード「イヌネコマンスリー」活動は2年目に入り、より広い観点からの施策アドバイスをもらい、広報やPR活動へ反映。14期からはメディアへのニュース配信を開始した。

また13期から取り組んでいる「寄付金管理システム」を導入。年間サイクルを意識しながら旧システムと並行使用し、ミスのない施行を目指して導入継続中である。

1) 個人からの寄付支援事業

本年度は寄付サイト「アニドネ」の主要ページをリニューアルし、より分かりやすい寄付導線を強化。クレジットカードによる寄付をより使いやすく、また寄付者が支援したい目的（介在犬支援や多頭飼育崩壊など）別の寄付ラインナップも判りやすく提示するように変更した。

今期はオンラインシステムのユーザビリティを改善し、昨年から約1.2倍のオンライン個人決済額であった。

また、今期初めてクラウドファンディングを実施。目的は多頭飼育崩壊支援のための緊急支援基金の資金調達である。目標金額300万円に対し、約700万円を調達。寄付者は458人であった。これにより認定団体のさらなる支援に繋がった。

能登半島地震においては、迅速な情報収集に努めた。正しい情報や緊急度の高い支援（犬猫の一時預かりなど）の情報を掲載するページは広くシェアされ大手メディアからの取材にもつながった。その結果、被災した飼い主や犬猫たちへ有益な情報支援となった。

アニドネレガシー（遺贈寄付）は、個人・士業・金融からの問い合わせは増加。遺されるペットのための遺贈依頼案件も遺言作成に向けて進行中である。犬猫への遺贈を当たり前の文化にするために地道な活動を継続中。

「紺綬褒章法人」は3件目を申請中である。

2) 企業団体からの寄付支援事業

今期は企業からの寄付に成長が見られた。世界的企業からの高額寄付やペット業種以外の企業からの寄付が増えたことは、日本の犬猫への支援がより重要な問題に近づきつつあるという良い兆候と捉えている。今期の企業寄付は、前期の約2倍になった。

今期実施した企業との主な取り組み実績について。前期開始された LINE 株式会社と犬の日と猫の日に「LINE スタンプ・絵文字で #犬の日 #猫の日 を盛り上げよう！キャンペーン」を引き続き実施。9500万人の Line ユーザーへ動物福祉問題を啓発する企画となった。9月の動物愛護週間では Yahoo! ネット募金の特設サイトにアニドネの啓発企画である AWGs の概念が紹介される。動物問題の概念を伝えるに適しているという理由であった。その他、花王株式会社「ビオレUスタンプハンドソープにくきゅうの購入が寄付」、ライオンペット「ずっとニヤかよしプロジェクト」、映画「三日月とネコ」とのコラボ寄付など波及効果の望める寄付企画を実施。セーブペットプロジェクト（ベーリンガーインゲルハイム アニマルヘルス ジャパン株式会社と日本全薬工業株式会社から医療寄付）は今期で14年連続の寄付となった。保護団体の活動の支えとなっている。

2. セミナー等の企画運営事業

【目的と意義】

ここ数年の保護活動の認知の高まりに伴う「保護ビジネス」の台頭を懸念している。大手メディアや企業、一般の方向けに要望に応じて「問題の根源・解決策」を伝えるセミナーを実施。単純に犬猫への哀れみだけでなく構造的な改革の必要性を引き続き伝えるセミナーの意義を感じた一年間であった。

今期4回目となる「犬猫保護団体ミーティング」をバージョンアップ。シェルターワークの質の向上を図るために、特別講師（日本獣医生命科学大学特任教授で、日本シェルターメディスン学会会長の田中亜紀先生）による『シェルターメディスン』に関するレクチャーを実施。また現場での解決策は今すぐ役立つ情報であるため、4団体に講義を実施してもらった。大変好評なセミナーとなった。

日時	場所	対象者	人数	テーマ	講師	主催
2023/6/1 木 13:00-14:00	オンライン	企業社員 (IT系)	約 10 名	日本の保護活動の問題と解決法について	(公社)アニマル・ドネーション 代表理事 西平衣里	(公社)アニマル・ドネーション
2023/7/28 金 10:50-12:20	帝京科学大学 及び オンライン	学生に加え一般の方々	約 100 名	動物福祉を世界トップレベルにするためのチャレンジ	(公社)アニマル・ドネーション 衆ひとみ	帝京科学大学
2023/8/9 水 15:00-16:00	オンライン	企業社員 (ペット業界)	2 名	アニドネの活動と日本動物問題について	(公社)アニマル・ドネーション 代表理事 西平衣里	(公社)アニマル・ドネーション
2023/10/9 月 10:00-11:30	オンライン	クラブアニドネ	5 名	日本の動物福祉の問題と解決法について	(公社)アニマル・ドネーション 代表理事 西平衣里	(公社)アニマル・ドネーション
2023/10/20 金 10:00-11:30	オンライン	SAP ジャパン株式会社	約 30 名	～知ることから始めよう～日本の動物福祉をトップレベルにするために私たちができること	(公社)アニマル・ドネーション 衆ひとみ	(公社)アニマル・ドネーション
2023/12/4 月 17:20-18:20	オンライン	明治大学 国際日本学部	4 名	動物と人が共存する社会を作るために、アニドネで行っている取り組みについて	(公社)アニマル・ドネーション 代表理事 西平衣里	(公社)アニマル・ドネーション
2023/12/9 土 10:00-11:30	オンライン	クラブアニドネ	2 名	日本の動物福祉の問題と解決法について	(公社)アニマル・ドネーション 代表理事 西平衣里	(公社)アニマル・ドネーション

2024/2/4日 10:00-11:30	オンライン	クラブアニドネ	2名	日本の動物福祉の問題と解決法について	(公社)アニマル・ドネーション 代表理事 西平衣里	(公社)アニマル・ドネーション
2024/2/28水 19:00-21:00	ライブハウス・渋谷ロフト9およびオンライン	弁護士や税理士等、遺言書執行に関わる専門家の方	約100名	トークイベント「JELFみどりの遺言 未来へのメッセージ・加藤登紀子」	歌手・加藤登紀子 他 環境問題に取り組む JELF 弁護士	JELF(日本環境法律家連盟)と、環境保護に取り組む14団体(アニドネ含む)は推薦団体
2024/4/19金 13:00-15:00	オンライン	動物保護団体	27団体(47名)	第一部：事前実施アンケート結果共有と『シエルトーメディスン』に関するレクチャー 第二部：アニドネ認定団体の活動紹介	日本獣医生命科学大学特任教授 田中亜紀先生 アニドネ認定4団体 代表	(公社)アニマル・ドネーション
2024/4/25木 18:00-19:00	オンライン	千葉県中小企業家同友会	35名	企業×社会貢献=人にも動物にも優しい社会	(公社)アニマル・ドネーション 代表理事 西平衣里	千葉県中小企業家同友会
2024/5/18土 10:00-11:30	オンライン	クラブアニドネ	2名	日本の動物福祉の問題と解決法について	(公社)アニマル・ドネーション 代表理事 西平衣里	(公社)アニマル・ドネーション

3. リサーチ事業

【目的と意義】

主な活動はAWGs(アニマルウェルフェアゴールズ)である。今期、サイトの大幅リニューアルを実施。動物問題を13のゴールと30のテーマにバージョンアップ。テーマのリサーチや専門家に取材し情報開示をすることで課題を明確にしている。その結果サイト全体へのアクションは1万を超えた。また世界各国(動物福祉ランク上位国)の24か国の法律リサーチをリーガルリサーチチームで実施。

保護犬・保護猫 支援プログラムを運営しているアマゾンジャパン合同会社とともに、保護犬・保護猫を取り巻く環境の実態調査を行うべく、一般生活者向けの【犬や猫の飼養に関する全国調査】を実施。全国20,163名を対象とした調査では、「今後犬や猫を迎え入れるのであれば、“保護施設”から」がトップというこれまでの成果を感じられる興味深い結果が出た。

4. 管理事業

【目的と意義】

当法人の目的や活動内容に理解・賛同をして、共に活動にしていだける方の拡大は、当法人の活動展開の上できわめて重要であり、活動の源となる。よって、当法人への会員になることで会費を提供いただく会員制度やボランティアという労力で活動を支える会員制度を設立し、活動規模を拓げる目的である。

1) 公式サポーター

今期、「賛助会員」から「公式サポーター」へ制度変更を実施。会費を年間から月額へ、振り込みではなくオンライン決済に変更。より、私共の地盤固めを行うことで、日本の動物福祉向上をスピードアップする狙いである。

今期は、個人賛助会員29名・法人賛助会員8社を募った。

2) スタッフの拡充

専門知識のある有償スタッフの拡充、志の高いボランティアスタッフの増員を実施。合計100名以上のスタッフとなった。4年ぶりにリアルに集まりタウンホールミーティングを実施した。アニドネでできることをベストし有意義な場となった。

内部活性化策としてアニドネカフェと称し、オンラインでのコミュニティを定期的開催。旬な話題やアンケート発表など、各人が高い興味を示すテーマに絞って実施を続けた。

3) 外部アドバイザーボード

法人運営の拡大や透明性を高めるために、動物学、経営学等の有識者数名を外部アドバイザーに迎えて、「審議委員会」を設けている。年1回審議会を開催して、支援先団体の選定に関する審議や、当法人の運営についてアドバイスをもらった。

今期の審議会は、外部有識者4名、当法人の代表理事1名の合計5名で構成している。

2023年10月に新認定6団体・既存更新8団体を認定審議。

5. 税額控除に係る証明の更新申請

寄付者の皆様から頂いた寄付が税額控除の対象となるように税額控除に係る証明の更新申請を行い、令和5年5月29日から令和10年5月28日までの期間の証明書を受領し活動継続した。

以上